

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 3月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0173700113		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホーム 幸豊ハイツ・ほのぼの		
所在地	〒049-5332 虻田郡豊浦町字大岸151番地18 (電話) 0142-84-1611		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月4日	評価確定日	平成22年3月25日

【情報提供票より】 (22年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 9 年 10 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人非常勤 5 人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	光熱水費15,000 (10月～3月別途5,000)		
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 84.4 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖が丘サテライトクリニック 友愛会歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、同母体組織が運営する特別養護老人ホーム・デイサービスセンターと併設されている。また、事業所職員の約8割が大岸地区に住み、事業所に職員住宅も併設されている。平成21年度から大岸SOSネットワークシステム推進委員会が立ち上がり、2ヶ月に1回会議が持たれ安心安全な地域作りが行なわれ始めている。増設された玄関は和の雰囲気を取り入れゆったりとした空間となっており、くつろぎの場にもなっている。自然溢れ安心安全な地域で、穏やかに楽しくその人らしい生活の継続、地域の方々との交流を持ちながら暮らすことのできる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で今後の課題として挙げられた、「地域密着型サービスとしての理念」、「チームでつくる利用者本位の介護計画」、「現状に即した介護計画の見直し」については検討され、改善に向けた取り組みが行われている。「重度化や終末期に向けた方針の共有」については更なる取り組みを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価に取り組み管理者が纏めあげている。職員一人ひとりの振り返りの機会になり、意識の向上に繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回定例化しており、行政関係者、自治会長、町保健センター保健師、民生委員、家族、同母体組織が運営する特養管理者で開催し、活動状況や事業内容等報告、リスクマネジメントや終末期に向けた取り組み等、意見交換が行われており、年に数回行事の日に行われモニター役にもなっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情、相談、要望等を受け付ける「ふれあいポスト」を設置、又、面会受付簿には、意見や感想を書くスペースを設けている。面会、電話等苦情に繋がりそうな事は、苦情ヒヤリハットとしてすぐ話し合う体制ができている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会のお祭りや盆踊り・町内のいちご豚肉まつり・スポーツ大会などの地域のイベントへの参加、小学校の運動会・学芸会見学等の学校行事への参加など地域との交流を積極的に行っている。また、去年は地域の方々の協力を得て花壇作りを行い、更なる新たな地域の方々との交流する機会となっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織としての経営理念、ケア理念を掲げており、当事業所独自の理念は考えていない。しかし運営方針に地域交流が含まれており、理念に基づいて地域交流が行われている。必要な時には、独自の理念を作る意向である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、スタッフルームに掲示し、且つカードサイズで携帯している。会議や日々の業務の中で確認している。母体組織の委員会によるヒアリングも定期的であり、理念を共有する仕組みが出来ている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のお祭りや盆踊り、町内のいちご・豚肉祭り、スポーツ大会等のイベントに参加、小学校の運動会、学芸会見学、昨年は、地域の方々と花壇作りを行なうなど交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み管理者が纏め上げている。自己評価を職員一人ひとりの振り返りや意識の向上に役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定例化され、行政関係者、自治会長、町保健センター保健師、民生委員、家族、母体の特養管理者で開催しており、活動状況や事業内容説明、リスクマネジメントや終末期等の意見交換が行われ、行事の日に行なうなどモニター役などで活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者が事業所の行事に参加、3ヶ月に1回の町の地域ケア会議に参加、月1回広報誌を届けるなど取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回事業所だよりである「ほのぼの通信」の発行、担当者から個々人の家族に利用者の暮らしぶりや健康状態等の報告、また金銭管理(医療、理、美容等)合わせて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ふれあいポスト」の設置や、面会受付簿に意見や感想を記入するスペースを設け、年1回母体組織が運営する全事業所では家族アンケートを行っているほか、面会時等苦情に繋がりそうな事はすぐに話し合う取り組みをし、あらゆる方向から、家族の意見等を汲み取ることの出来る様に工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の担当を、常勤と非常勤職員で2人1組としているため、1人が退職、異動となってもダメージは少ない。止むを得ない場合は引継ぎをしっかりと行ない最小限で留める配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画をたて、月に1回勉強会、母体組織内の研修も行なわれており、経験年数や職種別ごとの研修も行なっている。母体組織あがりの職員育成が行われている。外部研修後は報告書を書き全職員に回覧をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連合会での研修、情報交換、法人内グループホームでの意見交換、情報提供、宿泊研修にての交流会、情報、意見交流、ネットワーク作りに活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問や短時間の体験入居を重ねながら、少しずつ環境に馴染めるように配慮しながら、入居前に荷物を運び入れ、家族と相談しながら前と変わらない居室作りを行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフ、利用者が生活を共にする関係、喜びや悲しみを分かち合い、教えてもらう場面もあり自信に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族からの聞き取り、ライフヒストリー表を活用したケア、日々の関わりの中で表情や態度、発する言葉などで把握しながら利用者本意の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を確認して、カンファレンスを開催、職員の気づきや意見、気にかけていることを含め、一人ひとりに合わせた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1回見直しを行い、見直しの際には事前に本人・家族の要望を確認し、出来る限り要望を反映した介護計画となるようにしている。また、状態に変化があった時などは、随時カンファレンスを開催し、職員の気づきや意見、気にかけていることを含め、一人ひとりに合わせた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の自宅や温泉などの外泊支援、家族との外出への付き添い、通院介助、理美容支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医の往診、一人ひとりの状態報告、相談、かかりつけ医のある利用者は、家族と協力しながら通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の対応方針については定めており、家族に説明を行い利用者の身体状況に応じて、具体的な対応方針を話し合い、体制作りを進めている。	○	重度化や終末期に向けた体制づくりのため研修、かかりつけ医との連携等の更なる取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた自尊心を傷つけない関わり、個々に伝わる言葉を使い排泄等もさりげなく誘導している。記録も個人情報を遵守した取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを把握して、その日の体調や様子を見ながら「何をしたいのか」の思いを大切に希望が叶うよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に行い、生きがいや自信を持ってもらうように働きかけを行い、食事の時も同じテーブルにつき、話題づくり、食べやすい形態にするなど、楽しく食事のできる支援ができています。下膳、食器洗いなども行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数は希望に応じて行われ、就寝前の入浴も支援している。意思表示のできない方は、以前の習慣を踏まえた声かけをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、趣味、テレビ鑑賞、歌、花の水やりなど、カーテン引きや日付カードの取替えや金魚のえさやりなど日課にしている利用者もいる。気分転換のドライブ、散歩などその時に合わせた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な食材の買物や散歩、日光浴、気分転換にドライブ、季節感の味わえるお祭りや、果物狩りに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていない出入りは自由である玄関ドアには鈴が付けてあり、さりげない見守りが出来ている。地域のSOSネットワークも立ち上がっており、併設施設や近所の住民に対しても日頃から話をして理解を求めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練は年3回行い、夜間を想定したものや、職員の少ない時など、想定を変えながら、2回は消防署立会いのもと実施、講評を受け訓練に活かしている。事業所周辺に職員住宅を設けてあり、駆けつける体制が出来ている。近隣住民の協力体制もできている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400カロリーで献立が考えており、水分は個別に合わせて支援している。摂取量の少ない方には、随時チェック表にて把握して、栄養補助食品を使用するなどの支援が行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の支度の音やにおい等生活観があり、五感に働きかけている。季節を感じる飾り付け、籬壇など装飾して、季節の花を飾り、リビングから直接見えない和の空間もあり、一人で過ごしたり、気の合う同士で過ごせる工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染み使い慣れたのタンスや鏡台などの家具や、小物を持ち込み、以前の生活が継続でき、安心できる居室作りが出来ている。		

※  は、重点項目。